11歳以上の女子とその保護者の方へ

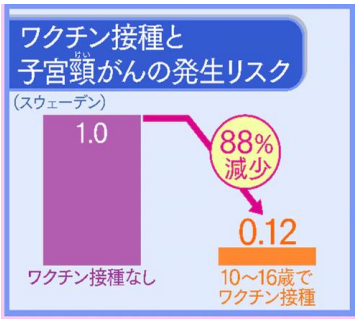
# HPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）の接種をおすすめします

## HPVワクチン接種でHPVの感染を最大90%予防できます

### ＜子宮頸がんとは＞

**HPV(ヒトパピローマウイルス)**の持続的な感染が原因で発症します。日本では20～40代の女性を中心に毎年約11,000人が子宮頸がんになり、約2,900人が死亡しています。

30歳代までにがんの治療で妊娠できなくなってしまう人も年間約1,000人います。早期発見・治療で子宮を温存できたとしても、流産や早産など出産時のリスクが上がります。




### ＜９価HPVワクチンが接種可能に！＞

2023年4月より**９価HPVワクチン**が公費で接種できるようになりました。このワクチンは既に世界80か国以上の国と地域で承認されています。

**９価HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となるHPV型の９割近くの感染を予防できます**。諸外国では男子にも定期接種を行っています。

### ＜HPVワクチンの定期接種＞

**小学校６年～高校１年生の女子は無料で接種を受けられます。**この期間を逃すと**最大10万円を自費で支払う**ことになります。**接種が3回の場合は、接種完了まで約半年かかるため早めの接種開始がお勧めです。9価ワクチンは15歳までに初回接種を済ませれば2回の接種でOK。**

### ＜HPVワクチンの副反応について＞

HPVワクチンは**他のワクチンと比べて、特別に重い副反応を起こしやすいわけではありません。**

**厚生労働省もWHO（世界保健機関）もHPVワクチンの安全性を担保しています。**

副反応については次ページ下段をごらんください。

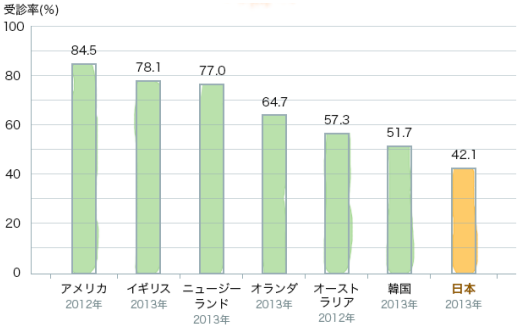
# 世界に遅れをとる日本の子宮頸がん対策

## ・依然低いHPVワクチン接種率

令和４年４月にHPVワクチンの積極的勧奨が再開されましたが、**接種率は十分に上がっているとは言えません。**
**北海道では令和4年度の実施率が17%と低い状況です。WHOは15歳までの女性が90%子宮頸がんワクチンを接種することを目標**としています。**私たち産婦人科医はこの現状に危機感を感じています。**

## ・低い子宮頸がん検診率

アメリカなどの先進国の子宮頸がん検診率が約７～８割なのに対し、**日本の検診率は約４割と世界的に見ても低い**のが現状です。
**20歳を過ぎたら2年に1回はがん検診を受けましょう。子宮頸がんは早期発見できれば治すことができる病気です。**




***＜ワクチン接種後に現れる可能性のある症状＞***

**・はれ、痛み（局所反応）**
ワクチンを接種した場所に起こる炎症。多くは数日以内に改善します。
**・アナフィラキシー**
接種後にじんま疹や咳等のアナフィラキシー症状が起こるのは約96万回に1回。
接種後30分は病院で様子を見ます。
**・接種後ストレス関連反応（ISRR）**

接種に対する不安や注射の痛み等のストレスをきっかけに、気分不快や失神など様々な症状が生じます。他の予防接種でも起こる反応で、思春期に起こりやすいという特徴があります。緊張していたり以前注射で気分が悪くなったことがある方は、ベッドに横になって接種するなどの対策が有効です。また本人や保護者が事前にしっかり説明を受け納得してから接種するとISRRの予防につながります。

※北海道では北海道大学病院、札幌医科大学付属病院がワクチン接種後に生じた様々な症状に対応する協力機関となっています。接種後に気になる症状が現れたら、接種した病院やかかりつけ医に相談して下さい。

HPVワクチンついてもっと知りたい方はこちら↓webで検索して下さい

・厚生労働省HP　ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん（子宮けいがん）とHPVワクチン～｜厚生労働省 (mhlw.go.jp)

・みんパピHP

運営：一般社団法人
「HPVについての情報を広く発信する会」

※HPVワクチン接種の予約については各医療機関までお願い致します。

HPVワクチン啓発ポスター　名寄市立総合病院　産婦人科